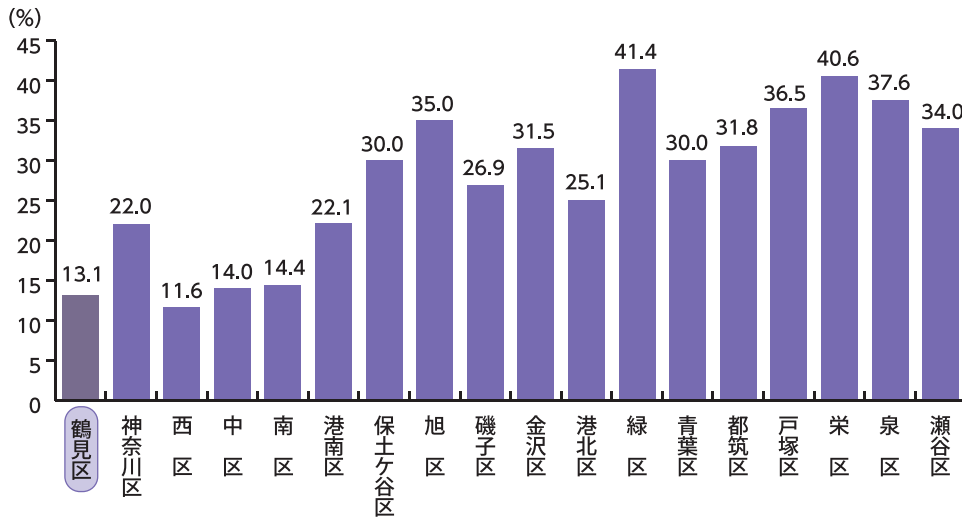


環境

緑被率 (平成26年調査)



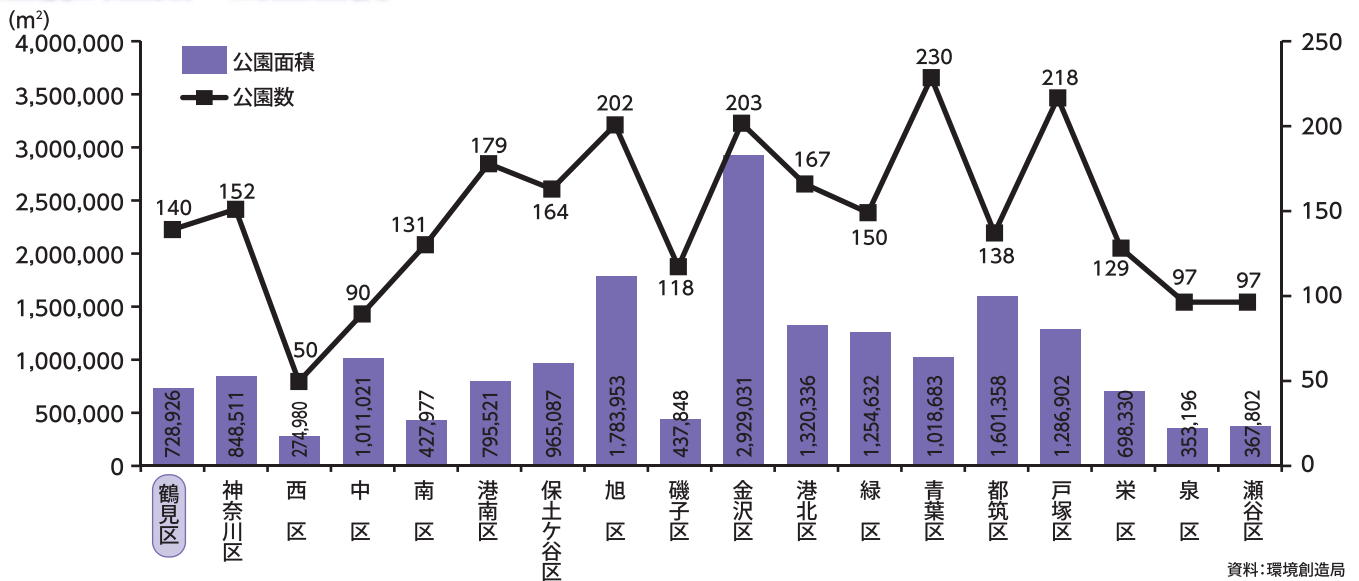
鶴見区の緑被率は、18区中17位です。鶴見区の緑被率は、年々減少傾向にあります。



資料: 横浜市統計書

区別公園数・公園面積 (※県立公園含む)

(平成27年7月1日現在)



資料: 環境創造局

鶴見区には、平成27年7月1日現在、140の公園があり、その面積は728,926㎡となっています(県立公園含む)。そのうち、県立公園である三ツ池公園が、区内の公園面積数の約4割を占めています。

鶴見川について

鶴見川は、全長42.5キロメートル、横浜市内唯一の一級河川で、多摩丘陵の山中の源流から、区内を北から南になだらかに蛇行しながら流れ、東京湾に注いでいます。

流れが緩やかで水量が豊かなことから、古くから流域の水運に使われ、内陸部の農産物は地先の河岸から河口に運ばれ、外からの物資もまた鶴見川によって内陸部に運ばれ、川筋はたいへん賑わいました。しかし、勾配がなだらかなため、満潮時には、海水が鶴見川を逆流し、農業用水には適していませんでした。そのため、駒岡、末吉などの鶴見川西側ではため池を作って、田に水を引いていました。現在も残る二ツ池、三ツ池は当時のため池です。対岸の矢向、市場などでは、多摩川から引いた二ヶ領用水路を農業用水として使用していました。

また、ひとたび大雨が降ると洪水を繰り返してきたため、昔から「暴れ川」と呼ばれ、流域の人々の生活や命をおびやかしてきましたが、現在では、護岸整備が進み、昭和57年の台風18号による氾濫以降、大規模な被害は発生していません。近年は、流域の都市化に伴い、工場や生活排水等により、鶴見川の汚染が進みましたが、現在、川をきれいにしようと環境保全活動が進んでいます。

